

診療所をパワーアップする 財務・会計 塾

院長の「生涯プラン」作成の勧め キャッシュの変化を知り経営計画に生かす

イースト会計事務所 税理士・社会保険労務士
森部 章

とたび開業医としてスタートを切れば、診療所の経営計画はもちろん、院長自身や家族の生涯プランもすべて自ら考え、長期にわたり資金面で支障が生じないようにしなければなら

ない。特に、医療法人化や事業承継という診療所経営上の重要なテーマは、院長自身の生涯プランをどう設計するか大きく左右される。

そこで今回は、首都圏で個人立の眼科無床診療所を経営するA院長の生涯プランを例に、キャッシュフローの視点からシミュレートして、そのポイントを解説する。

表1●A院長の生涯シミュレーション

増加率	2011年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	単位：万円							
																2026	2027	2028	2029	2030	2031		
医業収入	3.0%	8000	8240	8487	8742	9004	9274	9552	9839	10134	10438	10751	11074	11406	11748	12101	12464	12464	12464	12464	12464	12464	
薬品・材料仕入れ	3.0%	1600	1648	1697	1748	1801	1855	1910	1968	2027	2088	2150	2215	2281	2350	2420	2493	2493	2493	2493	2493	2493	2493
理事長報酬										3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	
理事長退職金																						10800	
給与	3.0%	1600	1648	1697	1748	1801	1855	1910	1968	2027	2088	2150	2215	2281	2350	2420	2493	2493	2493	2493	2493	2493	2493
家賃		1000	1000	1000	1000	1050	1050	1050	1050	1100	1100	1100	1100	1150	1150	1150	1200	1200	1200	1200	1250	1250	1250
器具備品費	3.0%	60	62	64	66	68	70	72	74	76	78	81	83	86	88	91	93	93	93	93	93	93	93
設備投資・修繕費					300					300						300							
リース料	3.0%	120	124	127	131	135	139	143	148	152	157	161	166	171	176	182	187	187	187	187	187	187	187
保険料										500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
諸経費	3.0%	200	206	212	219	225	232	239	246	350	361	371	382	394	406	418	430	430	430	430	430	430	430
借入金利息		60	40	20																			
借入金元本返済		1000	1000	1000																			
医業支出合計		5640	5727	5818	4912	5379	5200	5325	5453	9832	10271	10114	10261	10463	10619	11080	10946	10996	10996	12196	12196	15947	15947
A. 医業収支		2360	2513	2669	3830	3625	4074	4228	4386	302	168	638	813	943	1129	1020	1517	1467	1467	267	267	-3483	-3483
B. 理事長給与・退職金										3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	3600	10800	10800	10800
基本生活費	2.0%	800	816	832	849	866	883	901	919	937	956	975	995	1015	800	816	832	849	866	883	901	919	937
教育費(長男)			100	100	100	100	100	100	1500	500	500	500	500	500									
(長女)					100	100	100	100	100	100	150	100	100	100									
社会保険料など		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
住宅ローン		300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
その他支出	1.0%	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	112	113	100	101	102	103	104	105	106	107	107
所得税・住民税		825	902	980	1560	1439	1663	1721	1800	1321	1321	1321	1340	1340	1359	1359	1359	1359	1359	1359	1359	1359	2263
C. 生活費・税金などの合計		2125	2319	2414	3112	3009	3252	3328	4827	3367	3436	3407	3146	3167	2359	2376	2393	2411	2429	2447	2466	2466	3389
D. 単年度キャッシュフロー		235	194	255	718	616	822	899	-441	233	164	193	454	433	1241	1224	1207	1189	1171	1153	1134	7411	7411
年初預貯金		3000	3235	3429	3683	4401	5017	5839	6738	6298	6531	6695	6889	7342	7775	9016	10240	11447	12636	13807	14960	16094	16094
当年増減		235	194	255	718	616	822	899	-441	233	164	193	454	433	1241	1224	1207	1189	1171	1153	1134	7411	7411
E. 個人年末預貯金		3235	3429	3683	4401	5017	5839	6738	6298	6531	6695	6889	7342	7775	9016	10240	11447	12636	13807	14960	16094	23505	23505
年初預貯金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	197	306	720	1248	1861	2595	3258	4244	5198	6152	6326	6500	6500
当年増減		0	0	0	0	0	0	0	0	197	109	414	528	613	734	663	986	954	954	174	174	-3483	-3483
F. 法人年末預貯金		0	0	0	0	0	0	0	0	197	306	720	1248	1861	2595	3258	4244	5198	6152	6326	6500	3017	3017

将来設計をはっきりさせる

A院長は、現在45歳。妻と小学6年生の長男、小学4年生の長女の4人家族だ。2年前に、5000万円を借り入れて眼科の診療所をテナントで開業し、スタッフ2人、非常勤医師1人を雇用して診療に当たっている。

生涯プランを考えるに当たり、最も重要なのはキャッシュフローのシミュレーションである。「いつ、どのくらいお金が必要か」「何歳でどのくらいの資産形成ができていくか」という2点を数値化することで、将来の姿をより具体的にイメージできるようになる。

そのためには、院長が普段漠然と考えている将来設計を「前提条件」として

明確化しなければならない。A院長の事例の前提条件は以下の通りだ。

- ①長男を後継者にする
- ②いずれ医療法人化する
- ③自分自身は65歳ごろに引退する
- ④老後の資金をある程度準備する

その上で、現在の診療所の経営状況と院長および家族のライフイベントに基づき、生涯のキャッシュフローを予測した(表1)。前提条件①の長男の医学部進学を機に、長男を後継者として決め、翌年に②の医療法人化を実現する計画となっている。

表1を見る際は、個人・法人のキャッシュフローに注目してほしい。

1. 個人キャッシュフロー

法人化で院長の個人収入は、個人事

業の「A. 医業収支」から「B. 理事長給与」に替わる。ここから「C. 生活費・税金などの合計」を差し引いたものが、院長個人が1年間に稼いだキャッシュ(D. 単年度キャッシュフロー)となる。

2. 法人キャッシュフロー
- 一方、医療法人には、「A. 医業収支」から35%相当額の法人税などを差し引いたキャッシュが毎年蓄積される(F. 法人年末預貯金)。A院長の例では、法人化と同時に保険料全額を損金にできるタイプの生命保険に加入し、節税を図るとともに、2031年のリタイア時に解約して支払保険料の90%相当額の返戻金を受け取り、退職金の財源にする。
- 最終的に、リタイア時に個人のキャッシュが約2億3500万円、法人のキャッシュが約3000万円蓄積される計算だ。結果としてリタイア後の生活と次世代の診療所経営を、バランス良くコントロールできると思われる。
- 将来像をイメージした長期的なキャッシュフローの計画を立てることで、効果的な対策が可能となる。ぜひ一度、生涯プランを検討されたい。

森部の
アドバイス
家族全員を念頭に
生涯プランづくりを



開業医の生涯プランを考える際、最も重要なのがキャッシュフローです。自院の経営だけでなく、院長個人はもちろん家族のライフイベントも考慮し、「いつ、どのくらいのお金が必要か」「何歳でどのくらいの資産形成ができていくか」

を検討してみてください。中でも、医療法人化や引退に絡むキャッシュフローについて考えるときには、生涯プランが欠かせません。専門家とも相談し、選択肢が多いうちに打てる対策を積極的に進めてください。

イラスト◎やまもと 妹子